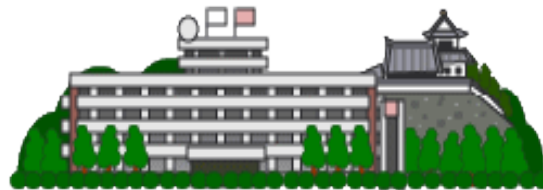


集落活動センターの概要について



高知県

集落活動センターの取り組みに至る経緯

人口減少と高齢化の進行

H23 県集落調査

- ・地域づくりや産業の担い手不足、リーダー不足
- ・これまで大切に守ってきた伝統行事等のコミュニティ活動の衰退
- ・一人暮らしによる健康面での不安
- ・生活を維持していくための環境悪化（生活物資、移動手段の確保等）
- ・基幹産業である第一次産業の衰退→現金収入の減少

その結果

地域活動の課題

- 地域活動が**存続できない、衰退**している
- 役職が**重複**し、1人が何役もの役職に就かなければならない
- 役員に**なり手がいない**。また、将来の**活動を担う若者がいない**。

人口減少、高齢化は、今後、ますます加速

今後、地域に住み続け、地域活動を維持していくためには、
地域同士、団体同士、更には行政と住民、民間が連携し、地域一体となって取り組む
ことにより、それぞれの活動を効率かつ機能的に行うことができる**新しい仕組み**が必要。

<集落調査について>

集落調査（平成23年度）

地域の実態、地域の方々が直面している課題

集落の状況

●将来、集落を維持できない

・集落が10年後に消滅している、衰退している・・・75.1%

●集落での共同作業やコミュニティ活動が継続できない、又は衰退している

・今後の集落の共同作業等が維持できない、わからない・・・66.9%

●人材の確保ができない

・リーダーがいない・・・25.8% ・後継者がいない・・・36.8%



集落維持の危機

生活

●日常生活に欠かせない生活物資の確保することが難しい

・生活用品の確保で困っている、課題がある・・・63.1%

●病院や役場などへの移動手段が確保できない

・60歳以上で運転していない人・・・40% ・移動手段がない又は不便・・・17.7%

●飲料水の確保することが困難になっている

・集落等で管理する施設を使用・・・40.9% ・施設維持が課題・・・52.7%



生活環境の悪化

産業

●農林漁業の不振

・集落の基幹産業が衰退・・・85.2% ・産業振興に繋がる資源がない・・・72.1%

●基幹産業の後継者がいない

・集落の主となる産業の後継者がいない、わからない・・・77.1%

●耕作放棄地、手入れをしていない山林の増加している

・耕作放棄地がある・・・65.0% ・手入れされていない山林がある・・・69.4%

●野生鳥獣による被害の増加

・野生鳥獣による農林被害を受けている・・・94.3%



産業の担い手不足と雇用の場の不足



引き続き中山間地域で生活していくことが困難になっている実態が浮き彫り

集落活動センターとは、どんなもの？

地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を活用しながら、近隣の集落や各団体・グループとの連携を図り、生活、福祉、産業、防災などの活動について、それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合的に、地域ぐるみで取り組む仕組み

平成24年度より取り組み開始

「集落(地域)の維持、再生」に向け、地域の活性化や支え合いの体制づくり、連携づくり、システムづくりに取り組むもの

- ・単なる機能の集約化や、施設整備といった、ハード的な取り組みではない。
- ・拠点となる施設を中心にして、住民力を生かした、新たな官・民・地域協働による、産業づくりや、福祉、生活サービス提供の仕組みづくりを目指す。

集落活動センターの拠点づくりは、あくまでも「手段」であり、**集落を維持・再生するための仕組みを作りあげることが真の目的**！！

<集落活動センターのイメージ>

集落活動センターによる集落維持・再生の仕組みづくり



集落活動センターの特徴は！！

①拠点をつくる

- ・廃校や集会所などを活用して、住民同士が集い、交流するなど、様々な活動を実践する地域の活動拠点や、交通の連結点や福祉などの生活サービスの拠点となる場所をつくる。
⇒暮らしを守る心の拠り所、未来を拓く希望の拠点

②主役は、地域の住民の皆様

- ・行政主導ではなく、住民自らが主体となって、それぞれの取り組みを進める。
⇒行政はサポート役に徹する(放り任せでなく、しっかりと見守る)

③活動は地域のオーダーメイド

- ・地域の抱える課題を解決したり、住民の思いや、やりたいことを実現するため、住民の発意、アイデア、提案を、実際の取り組みに繋げる「オーダーメイド」により、取り組みを進める。
⇒それぞれの集落活動センターで取り組みは異なる

④地域外の人材などを活用

- ・集落活動センターの推進役として、地域の活性化に向け、住民と一緒に活動する人材を地域外から導入する。(Uターンを含む)
⇒将来的には、集落活動センターや地域活動・産業活動の担い手としての定住

⑤近隣集落による連携

- ・近隣の集落が互いに助け合い、連携しながら、単独集落で難しかったコミュニティ活動や共同作業、支え合い活動を地域づくりで取り組む。
⇒まともりは、絆が深い旧の小学校区単位や旧の町村単位を想定

集落活動センターに取り組む背景!!

◇行政からの視点

- ・人口減少や高齢化に伴う負のスパイラルにより、地域課題が年々、多様化。
- ・課題解決のための行政サービスのコストがますます増大！！
- ・合併や行政組織の見直しにより、職員数の削減
- ・山間地域では、家や集落の点在により、行政運営が非効率

行政だけでなく、住民力を生かしたサービスの仕組みが必要

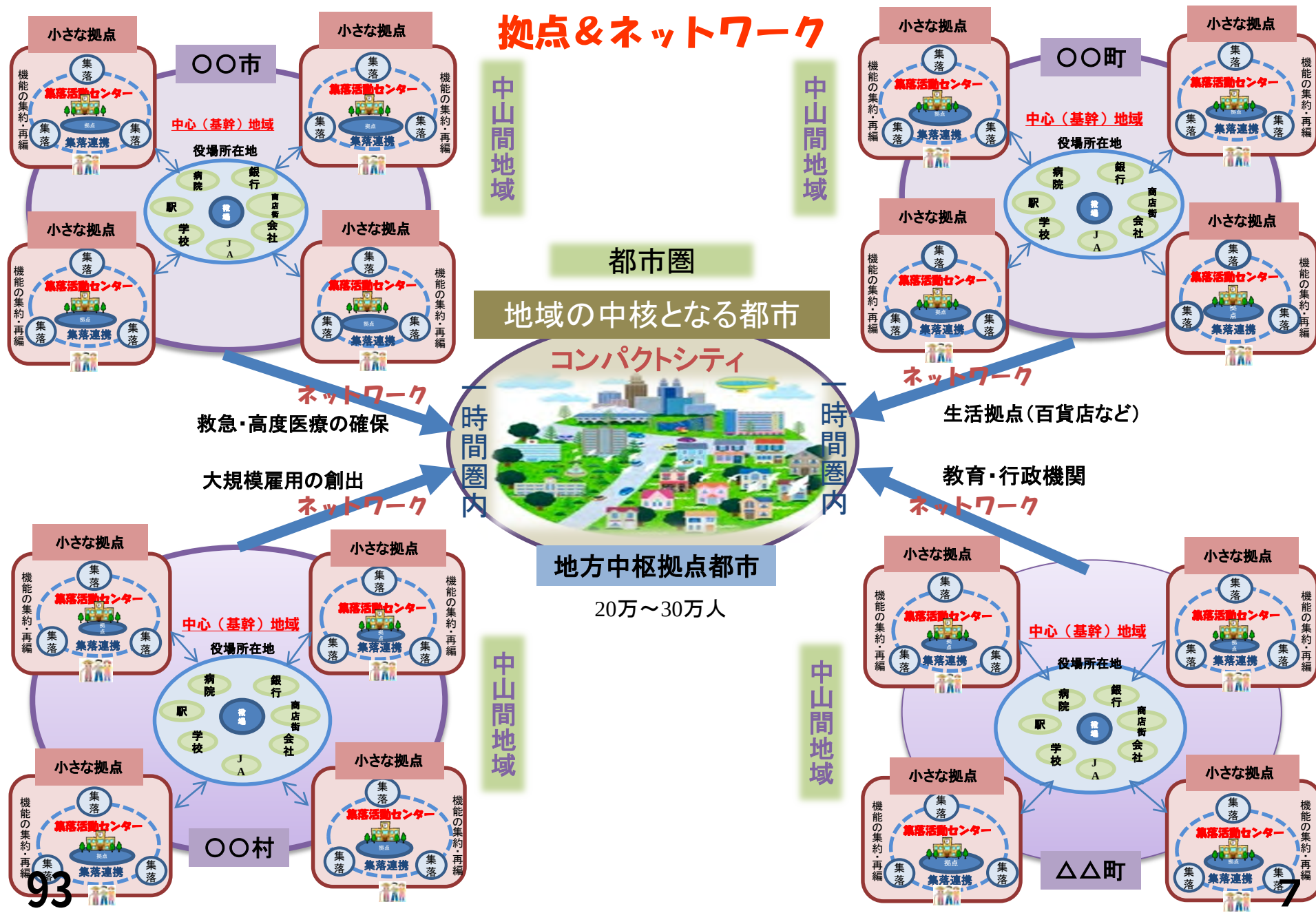
◇地域からの視点

- ・集落調査により、それぞれの地域で課題やニーズが異なる実態が具体化、明確化
- ・画一的、一律的な行政サービスでは、地域の思いやニーズに十分、対応できない
- ・住民主体の方が、活動が長続きし、将来的に持続できる
- ・従来、地域で行われてきた集落活動の復活の足掛かりとなる

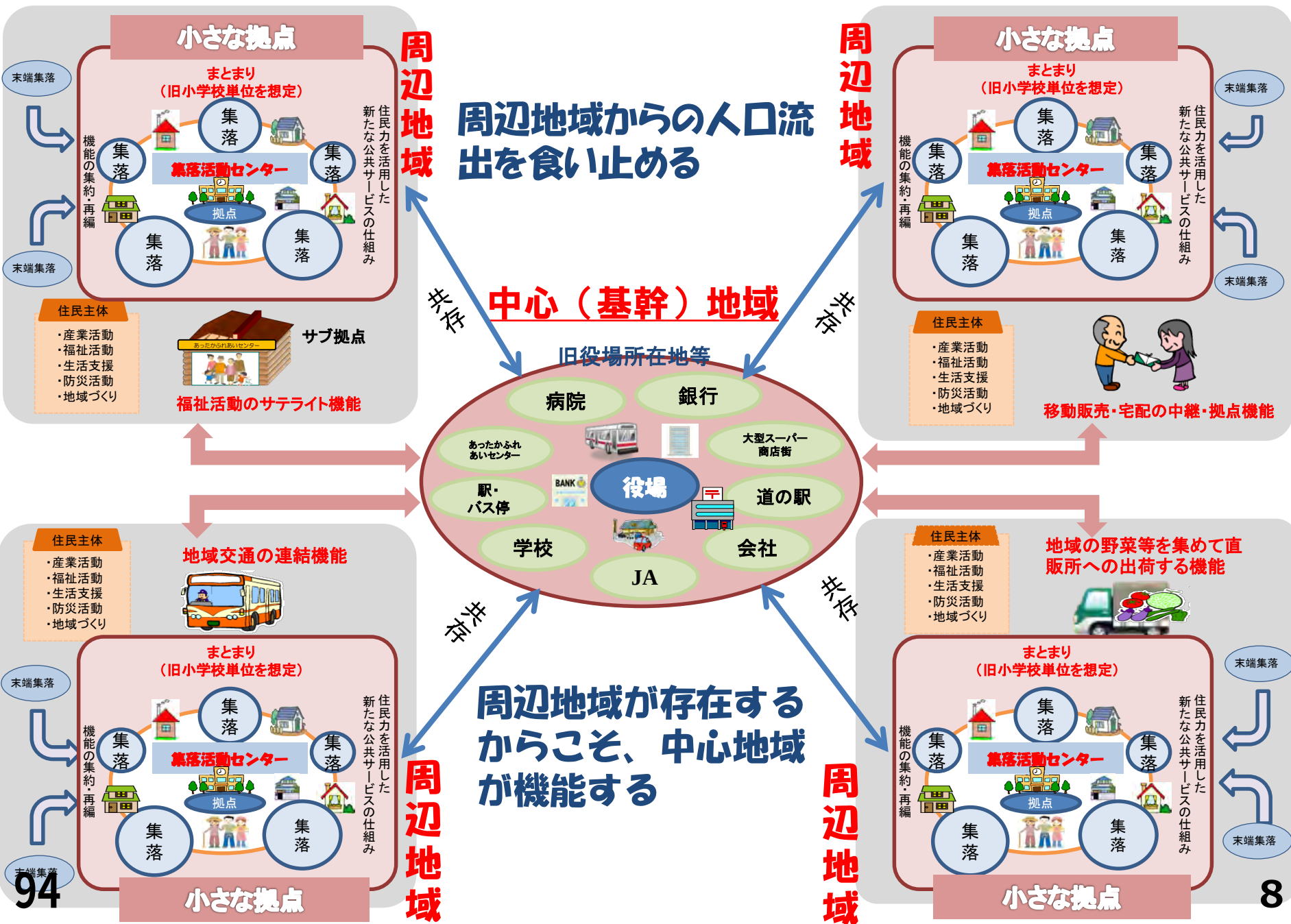
住民主導により、住民の意向を反映した取り組みが必要

■国の国土計画のイメージ【コンパクトシティと小さな拠点】

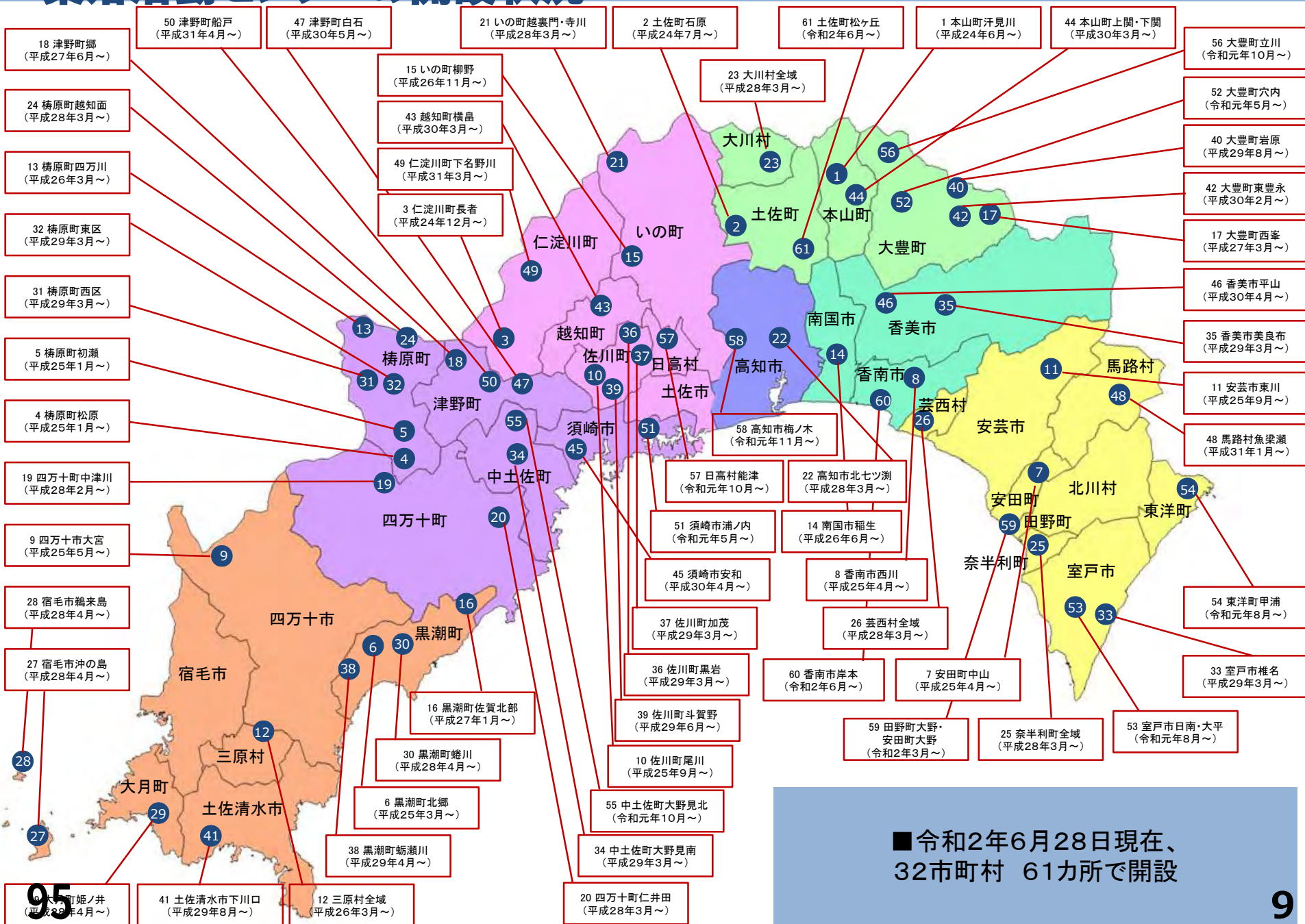
拠点&ネットワーク



■各市町村における「小さな拠点」の設置の考え方



集落活動センターの開設状況



集落活動センターの取り組み事例

(1) 集落活動センター「汗見川」(本山町)

地域住民が主体となって、汗見川ふれあいの郷 清流館を拠点に、集落の連携による既存活動のブラッシュアップや新たな活動の実施をつうじて、次世代の人材を確保し、集落での活動をいつまでも続けられる魅力ある集落を目指す。【平成24年6月17日 開設】

目的

- 集落の維持
- 将来の担い手となる人材の確保、育成

集落活動センター「汗見川」

集落活動の拠点

「汗見川ふれあいの郷 清流館」



連携する6集落(104世帯:216人)
【立野・坂本・屋所・沢ヶ内・瓜生野・七戸】

★特産品づくり・販売

- ・充実、強化を図った活動の実施
- ・新たな特産品づくり
→ 山菜・シカ肉等の活用



シソジュース

★人口交流・体験

- ・充実、強化を図った活動の実施
- ・新たな交流イベントや体験メニューの実施 → 登山ツアー等



手打ちそば

★防災活動

- ・地域防災体制の充実
- ・ヘリポートの活用



森のおきやく

★農産物等の生産、販売

- ・薬草の栽培等



★鳥獣被害対策

- ・シカ肉の活用



★生活支援サービス

- ・買い物支援など高齢者を地域で支える仕組み



★安心・安全サポート

- ・見守り活動など高齢者を地域で支える仕組み



運営主体・体制

【運営主体】

汗見川活性化推進委員会

【運営体制】

- ・委員会の部会長、世話役
- ・本山町ふるさと応援隊(高知ふるさと応援隊)
- ※役場、地域支援企画員が共同でサポート

本山町役場

支援

高知県庁
【支援チーム】

仕組みづくりの推進役
【本山町ふるさと応援隊】

(2)大宮集落活動センター(四万十市)

センター設立の目的

大宮地域住民が主体となって、集落及び団体同士の連携による新たな活動の実施を通じて、担い手を確保し、集落での活動がいつまでも続けられる魅力ある集落を目指す。【持続可能な集落づくり】



集落活動センターの活動内容

①特産品づくり・販売



地域資源を活かした加工品づくり

②観光交流活動



③店舗経営

店舗（集落コンビニ）の経営



④配食・配達



⑤農産物の集出荷の仕組み



住民の庭先まで集荷



コンテナに集約して直販所で販売



⑥集落活動サポート



共同作業の取り組み



得意分野や技術の活用

⑦鳥獣被害対策



⑧安心・安全サポート



お守りカード		緊急番号 119	消防 40-1099
氏名		家族電話番号	62-2178
生年月日		連絡先電話番号	42-0110
住所		郵便番号	
電話番号		所在地	
性別		所在地	
職業		電話番号	
家族構成			

緊急連絡先 住所録	
氏名	住所 (電話番号)
1	
2	
3	

⑨生活支援サービス



病院・買い物などの移動手段の確保（過疎地有償運送制度等を活用）

⑩健康づくり活動



研修会の開催



食事会の実施